

## 樽前山の火山活動解説資料（平成 20 年 1 月）

札幌管区気象台  
火山監視・情報センター

樽前山では、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は見られません。  
 山頂火口原内の溶岩ドームのA火口及びB噴気孔群では高温の状態が続いていると推定されます。溶岩ドーム及びその近傍では、火山ガスや火山灰噴出に対する警戒が必要です。  
 平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報警戒事項に変更はありません。

## ○ 活動概況

## ・ 噴煙活動（図 2～4）

A火口及びB噴気孔群の噴煙の高さは火口縁上概ね100m以下で推移し、噴煙活動は静穏な状況が続いています。

23日に第一管区海上保安本部の協力を得て実施した上空からの観測では、噴煙及び火口の状況に変化はありませんでした。

## ・ 地震活動（図 2、図 5、表 1）

火山性地震は一日あたり0～10回で、地震活動は低調に経過しました。震源は概ね山頂ドーム直下のごく浅い所に分布し、これまでと比べて特に変化はありませんでした。

火山性微動は観測されませんでした。

## ・ 地殻変動（図 6～7）

GPS 連続観測では火山活動によると思われる変動は観測されませんでした。

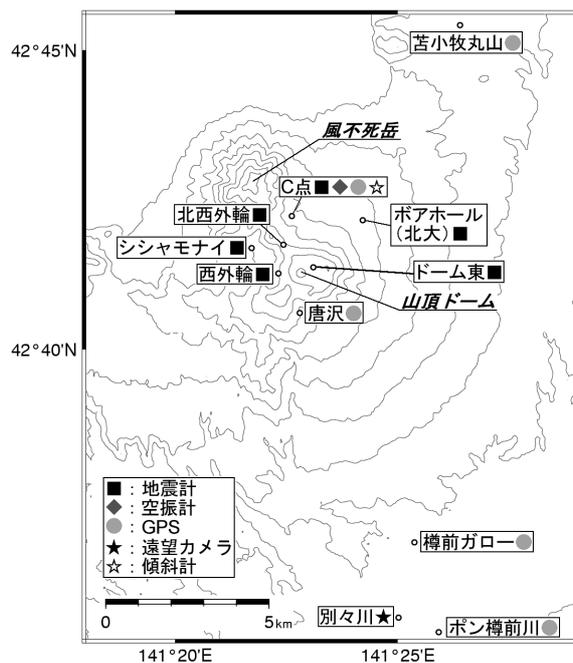


図 1 樽前山 火山観測点配置図

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.sapporo-jma.go.jp>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 20 年 2 月分）は平成 20 年 3 月 6 日に発表する予定です。

※ 資料は気象庁のほか、独立行政法人産業技術総合研究所、北海道立地質研究所のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平 17 総使、第 503 号）。

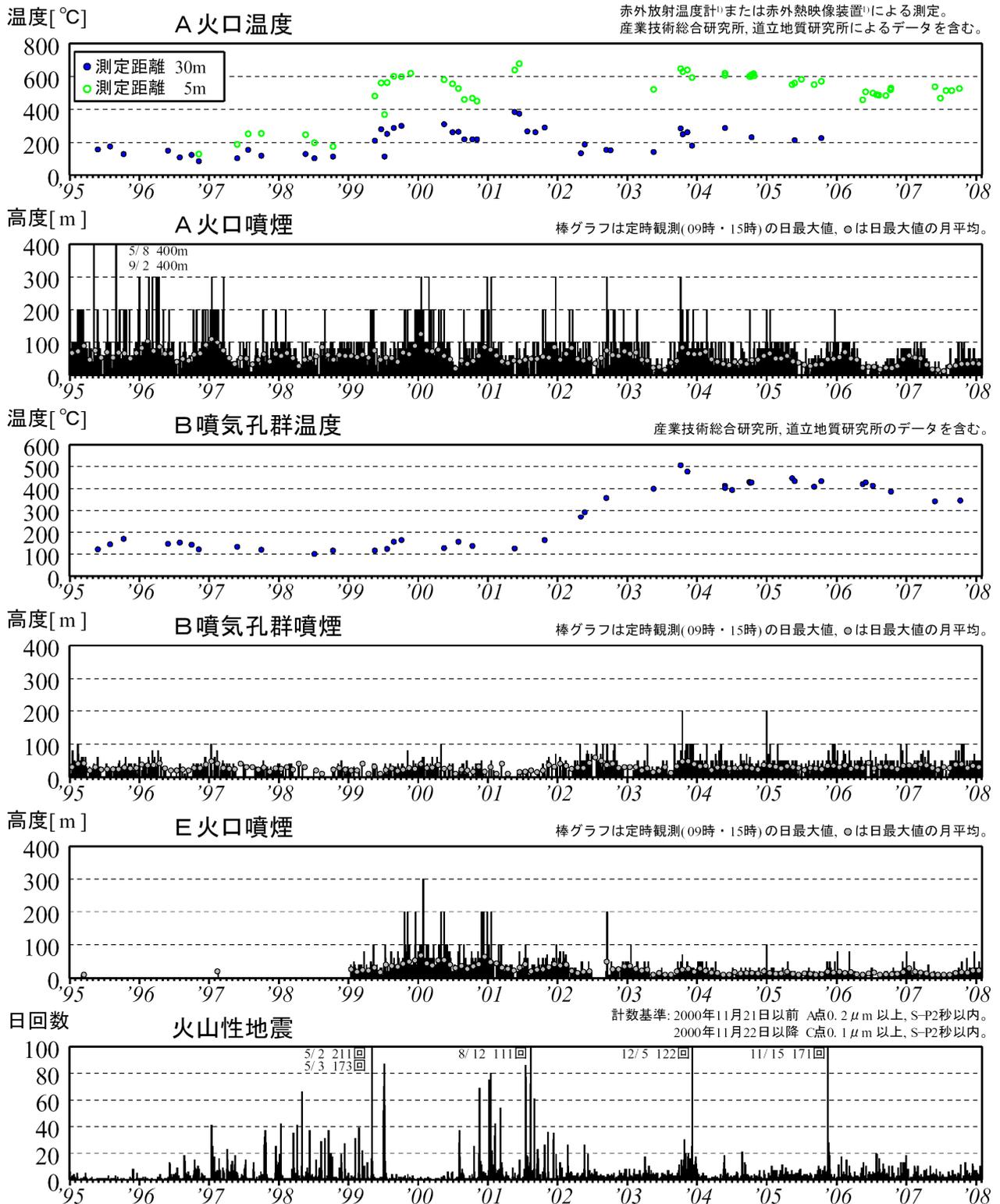


図 2※ 樽前山 最近の火山活動経過図（1995 年 1 月～2008 年 1 月）

- ・ A 火口の温度は 1999 年から、B 噴気孔群の火口温度は 2002 年以降高温の状態が続いています。
- ・ 地震活動は 1996 年以降消長を繰り返しています。2005 年 11 月に一時的に地震回数が増加しましたが、その後は少ない状態で経過しています。

1) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。



図3 樽前山 山頂溶岩ドームの状況

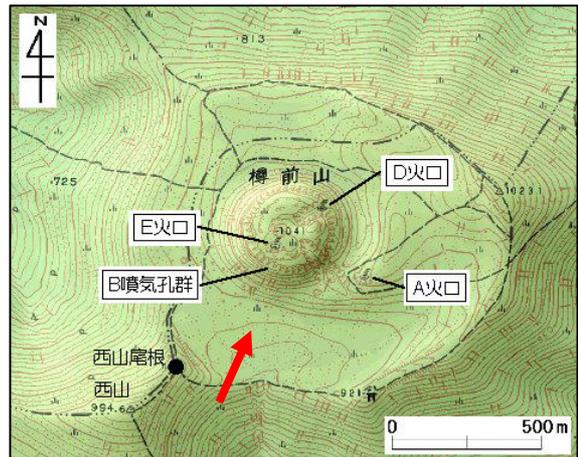


図4 樽前山 山頂周辺図

表1 樽前山 地震・微動の月回数 (図1のC点)

2007~2008年	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
地震回数	87	40	49	56	45	29	57	45	49	52	74	63
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

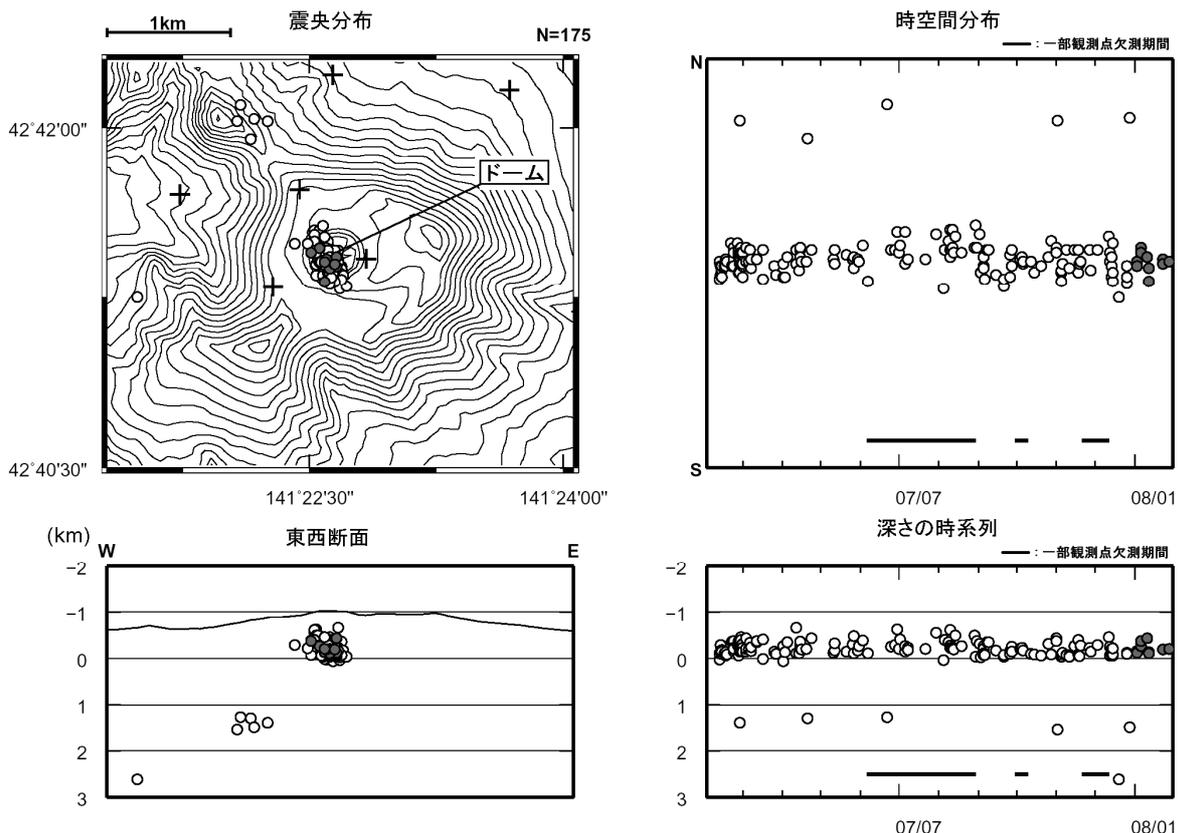


図5 樽前山 震源分布図 (2007年2月~2008年1月、+は地震観測点)

表示期間中、2007年6月6日~2007年8月30日、2007年9月27日~2007年10月10日及び2007年11月21日~2007年12月12日の期間は、一部観測点欠測のため震源決定数が減少し、精度も低下しています。

●印は今期間 (2008年1月) の震源

○印は前期間までの11ヶ月間 (2007年2月~2007年12月) の震源

・前期間までの震源は山頂ドーム直下のごく浅い所 (山頂から深さ0.5~1.0km付近) に集中し、ドームの北西1.5km付近の浅い所にも分布しています。今期間の震源も概ねこの領域内に分布しています。

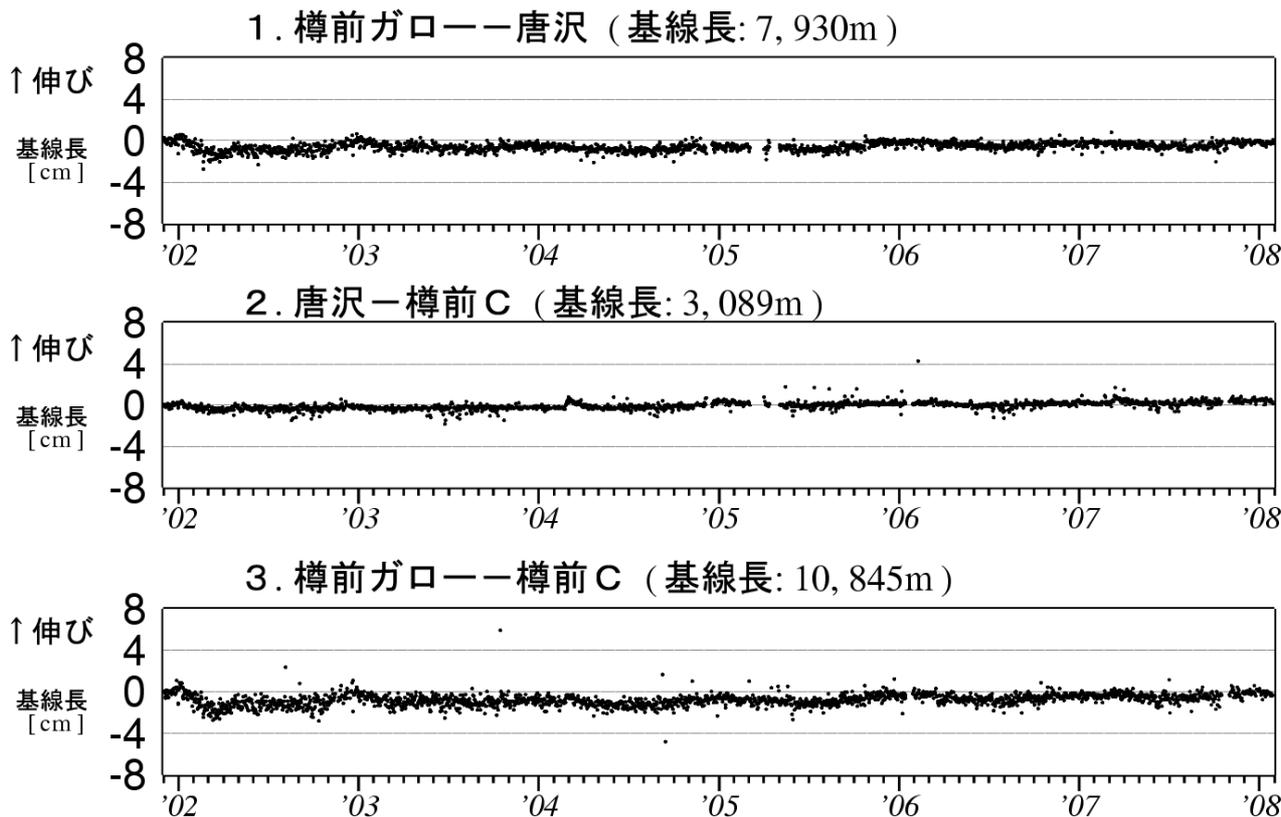


図 6 樽前山 GPS 連続観測による基線長変化 (2001 年 12 月～2008 年 1 月)  
 グラフの空白部分は欠測  
 図 6 の 1～3 は、図 7 の GPS 基線①～③に対応しています。

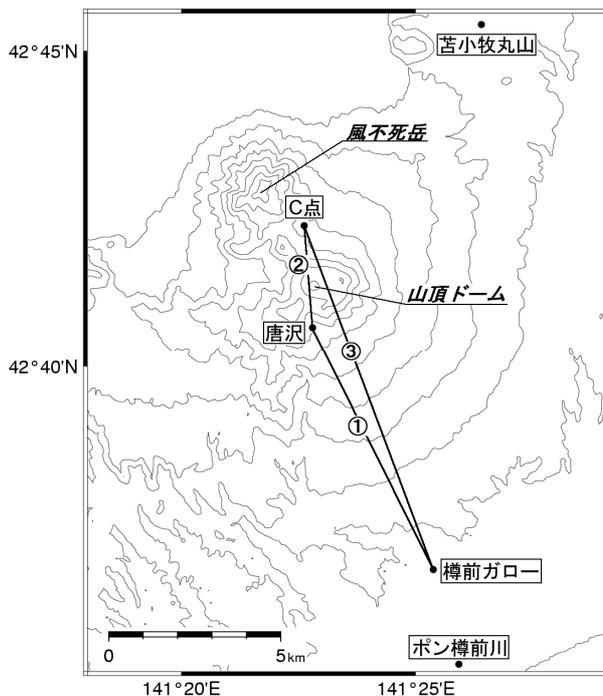


図 7 樽前山 GPS 観測点配置図